地域コミュニティ
×
関係人口
レポート

関係人口の若者
が地域で活動するには

むらやま若者みらい創造モデル事業　報告書

目　次

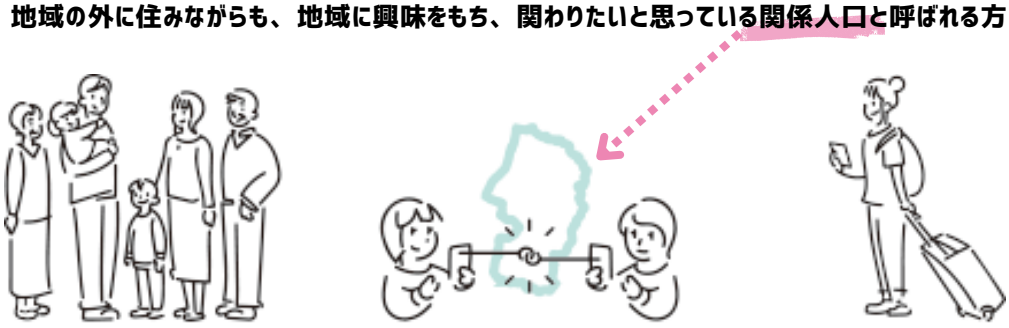
・むらやま若者みらい創造モデル事業とは …… 1
・令和６年度の事業概要 …… 2
・活動詳細１・メンバー募集 …… 3
・活動詳細２・地域コミュニティの活動への参加 …… 4
・活動詳細３・意見交換会 …… 6
　・なぜ若者は地域コミュニティ参加に踏み出せない？ …… 9
　・関係人口の若者が参加したくなる地域コミュニティ企画運営のポイント …… 10
　　・これがあれば参加しやすい！ポイント１.SNSでの情報発信 …… 11
　　・これがあれば参加しやすい！ポイント２.参加したくなる活動内容と伝え方 …… 13
　　・これがあれば参加しやすい！ポイント３.コーディネーター …… 16
・活動詳細４・報告書の作成・報告会の開催 …… 18
・まとめ …… 19

本レポートは、山形県村山総合支庁が令和6年度に実施したむらやま若者みらい創造モデル事業の一環で作成しております。持続可能な地域を作っていく方法の１つとして、町内会・自治会などの地域コミュニティと地域外の関係人口がつながっていくための参考にしていただければと思います。

むらやま若者みらい創造モデル事業とは

人口減少に伴い、住民同士の支え合いなど、これまで地域コミュニティが果たしてきた機能の低下が懸念されています。

「地域コミュニティが持続的に機能していくためにはどうすれば良いだろうか」
そう考えて、**地域の外に住みながらも、地域に興味をもち、関わりたいと思っている関係人口と呼ばれる方に着目しました。**



定住人口
地域に住んでいる方

関係人口
地域に興味関心を持ち
関わりたいと思っている方

交流人口
旅行やイベントの訪問者

山形県村山総合支庁では、「関係人口が地域コミュニティへ参画することで、持続可能な地域コミュニティの形成に寄与することは出来ないか？」と考え、令和５年度から６年度の２か年に渡り、村山管内の市町への支援としてモデル事業を実施しています。

むらやま若者みらい創造モデル事業　令和５年度の事業内容

① 地域コミュニティ現状調査

地域コミュニティが抱える課題や関係人口に対する意識を把握することを目的に「地域コミュニティ現状調査」を実施しました。

調査対象：山形県東南村山管内市町における地域コミュニティ（自治会、町内会等）の代表者
（回答数：206件中148件）

② 地域コミュニティ参画に係る意識調査

関係人口による意識及び地域コミュニティ機能の維持・協働に係る可能性を把握することを目的に「地域コミュニティ参画に係る意識調査」を実施しました。

調査対象：山形県外在住者
（回答数：364件）

③ マッチングの可能性を探る交流イベント

地域コミュニティと関係人口をオンラインでつなぎ、「地域コミュニティ参画に係る意識調査」だけでは拾いきれない関係人口の細かな意見を聴取するため、地域コミュニティ活動に興味がある首都圏の若者等による交流会を開催しました。

※本調査における「関係人口」とは、「主体的・継続的に地域コミュニティ活動に参画する者」を指します。

令和6年度の事業概要

令和5年度の総括

昨年度の関係人口レポート

「地域コミュニティ」と「関係人口」の間には
様々なギャップがある。
両者がつながるために
ギャップを埋めるコーディネートを行うことで
地域コミュニティの地域活動に新たな進展がある。

1. 「関係人口」と「移住(UIJターン）する人」は、地続きでつながっていると考えれば、地域コミュニティと関係人口のマッチングは移住の「数歩前の状態」と捉えることができ、将来の移住に結び付く可能性がある

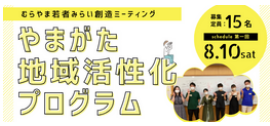
2. お互いに抱いている「イメージが出来ないからピンと来ない」となるのを打開するなら、お互いに「情報発信」や「直接話すこと」を大切にすると良い

3. お互いをリスペクトする関係性づくりや無理のない範囲での関わりを徐々に進めていき、両者をよく知るコーディネーターを介して地域コミュニティと関係人口のギャップを埋める工夫をする

令和6年度の事業概要

実際に、関係人口の若者が地域コミュニティの活動に参加し、
関係人口と地域コミュニティがつながり、関わるための具体的なアイディアを考えました。

メンバー募集



キックオフミーティング

地域コミュニティ活動への参加

参加した地域コミュニティ活動

山形市やよい町内会
西山形の酒を造る会

意見交換会

つながり、関わるための
アイディアの検討

報告書
報告会

活動詳細　1.メンバー募集

山形県内在住の高校生や大学生、20代の社会人、首都圏在住者が集まり、活動しました。

参加のきっかけ・理由

高校時代を山形で過ごし山形が大好きになった。将来的な山形への移住を見据えて山形とつながり、地域発展に貢献したい。
大学生H.Sさん

故郷をこれから先も残していくために何ができるかを考えたくて、普段かかわりのない若者と対話することに興味を持った。
高校生S.Mさん

大学進学を機に仙台から山形に来て、過疎化や地域課題について考えるようになり、個人で何ができるのか分からずに踏みとどまっている現状を変えたい。
大学生S.Hさん

将来は山形県で公務員として働いて地域の活性化に貢献したいので、今のうちから実践的に活動することで様々な学びを得たい。
高校生G.Kさん

友人からの誘いと、私の好きな山形で、周りと協力して考え、課題解決に向けたアイデアを出すという経験を積みたかった。
高校生K.Mさん

現在東京で会社員をしているが、以前から地方創生に興味があり、将来何らかの形で地元の山形県に関わりたかったから。
社会人K.Mさん

地元が町内会の活動が活発な地域で、子供の頃からの良い思い出が多くあったので、自分がおばあちゃんになった時にも残って欲しいと思ったから。
大学生H.Mさん

東京で働く間に地域活動やコミュニティという居場所に関心をもち、これまで培った経験や強みを今回のプログラムに活かすことができると考えたから。
社会人K.Yさん

山形県の地域活性化のためにできることは何かを改めて考え直したいと思ったから。
高校生N.Mさん

仙台に通うようになってから「やっぱり山形のことが好きかも」と思い、山形のことをもっと知りたくなった。
高校生Y.Hさん

地元のお祭りに参加していて、地域活動に興味があるから。
社会人O.Mさん

将来は地域振興に関する仕事に就きたいので、今回のプログラムを見て実際に体験したいと思った。
高校生H.Yさん

無形文化財の調査を通じて文化継承に対する内外のギャップを知り、地域コミュニティの活性化と文化の継承のためにも、内部と外部を繋ぐ架け橋となる人間が必要だと感じたから。
大学生K.Kさん

公務員になりたいと考えていて、この活動を通して地域課題について考え、自らの能力を向上させたいと思ったから。
大学生Y.Sさん

山形で公務員として働きたいと考えていて、大好きな山形のために何ができるか考える良いきっかけになると考えたから。
大学生E.Sさん

活動詳細　2.地域コミュニティの活動に参加

8/10 キックオフ

メンバーの顔合わせのほか、山形市やよい町内会・西山形の酒を造る会の代表者に活動内容や抱えている課題を伺うなど、交流を深めました。

9/14 山形市やよい町内会

普段の町内会の活動である、防災訓練・AED講習を行いました。

お互いに自己紹介

町内会の方からは「なぜこのプログラムに参加してるの？」など質問が相次ぎました。

同年代の人たちとはしない会話や活動がしたいんです！

町内会長や副会長さんたちをはじめ、役員の方々が若者やよそから来た人たちを歓迎してくれる雰囲気が伝わって来た！

「地区内の人を安心させたい」地域に寄り添った活動をしている町内会があることに圧倒された。

AED講習

徳洲会病院の方に教わって実践。

防災訓練

災害時に、簡単にご飯が炊ける。

周りの病院の方や小学校とも関わりを持っていたのが印象的だった。

交流

完成した防災メシを食べながら、お話を伺いました。

メンバーの感想

どうやって若者に関わってもらうかという点でみなさん非常に悩まれていた。「町内会は自分には関係ない」という若者の意識を変えてもらう必要があると感じた。

やよい町の人たちが抱える悩みを聞いた。
若者がいることによって変わる話をしてくれたことが印象的だった。

町内会の活動をとても意識高く行っていることが印象に残った。町内会というコミュニティの活動の重要性を感じることが少なかったため、自分の地域の活動にも関わっていきたいと思うようになった。

地域コミュニティの感想

若者と話せてよかった。

真面目で前向きな若者たちだった！

若者からエネルギーをもらった！

9/22 西山形の酒を造る会

山形市西山形地区で、有志が集まり、「地元」にこだわった日本酒づくり活動を平成17年から実施しています。「地域活性化や住民同士のコミュニケーションが深められることがしたい」と考えて始まりました。

副会長の柏倉さん（明源寺住職）のお寺でデジタルデトックスをした後、芋煮会を行いました。（台風のため、酒米の稲刈りは中止）

一緒に芋煮会の準備

おにぎり握る時の「はいどうぞ」「次は?」「大きくラップすっといいんだ」というお母さま方とのやりとり、地域の１人になった感じがして印象に残った。

交流

地域の方からお話を伺いました。

私の予想以上に、地域住民の方々が若者との交流を喜び、歓迎してくれて嬉しかった。

私が名刺を渡した際に、住民の方がすごく喜んでくれて、「また来てね」と言ってくれたことが印象的だった。

メンバーの感想

「自分の子供ですら県外に行ってしまっているので、若者に残ってほしいとは言えないが、こうして他の地域の若者と関われるのは嬉しい。」という話が印象的だった。

ご近所さん同士の仲がとてもよかったのが印象的でした。この付き合いこそが一種の魅力なのではないかと思いました。

若者がいることによって、車が使えなくなった高齢者の方の助けにもなるし、助け合いが出来るなどの話がすごく印象的でした。

山形市なのに、中心街から少し外れただけでこんなに自然と触れ合える機会があるのは貴重だと思った。都市部から離れた静かな地域で、多忙な日々からエスケープしたい人にとっては魅力的だが、若者の多くは車がないと行けない場所を敬遠してしまう気がした。

地域コミュニティの感想

若いのに、しっかりと地域おこしを考えていることにビックリした。

今の若者も、まんざら捨てたものでない。山形の明るい未来を感じた。

今の山形の状況を何とかしたいという気持ちが素晴らしい。

この会で知り合った者同士、今後一緒に何かを行うことがあるかもしれないし、仲間が一緒にいるということが大事だ。これからも田植えや稲刈りを継続して行っていけるような、明るいものを感じた。

活動詳細　3.意見交換会

地域コミュニティでの活動後に、自分が体験して感じたことなどを踏まえて、「関係人口の若者と地域コミュニティがつながり、関わるためのアイディア」を一人一人が考え、メンバー同士で意見を出し合いました。

活動の振り返り

みんなで意見を出し合う

個人ワークで1人1人がアイディアを考える

関係人口の若者が地域とつながり、関わりやすいアイディア

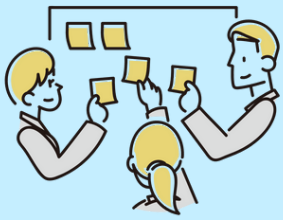
交流・コミュニケーション

若者が気軽に集まれる憩いの場を地域に作る

地域を知るための散策を通して、若者が「若者にとっての憩いの場」を地域に作ることができるかを考える。
（大学生）

多世代・異世代間交流を促す場を作り、地域の「やってほしいこと」と若者の「できること」をマッチングする

「持ち寄りのご飯を食べる会」「公民館を解放して多世代が集まる」など公民館に集まる場を作る。若者に来てほしいと思っている地域コミュニティ側の「こんな地域にしたい、これをやってみたい」に対して、若者は自分ができることなど話せたらいいと思う。地域と若者を繋ぐ役割のコーディネーター(仲介、パイプ役)は、お互いの強みや活かせる得意なことをマッチングする。
（社会人）



事例　栃木県大田原市 「一般社団法人えんがお」の取り組み

「誰もが人とのつながりを感じられる社会」を目指して「高齢者の孤立」を中心に様々な社会課題と向き合っている。「えんがおサポーター」と呼ばれる運営に積極的な学生たちや地域の若者も混ざって、社会課題や地域課題に取り組んでいる。地域の空き店舗を活用し、1階は高齢者の地域サロン、2階は学生向けの勉強スペースを設け、互いに繋がり助け合える居場所を作っている。

地域コミュニティと関係人口の距離を縮める

・グループラインなどを作り連絡を密に取り合えるようにする。
・月に１回程度、地域と若者でテレビ電話してはどうか。
・運動会のような体を使うレクリエーションを開催する。
（高校生）

「第二の祖父母の家」を目指した温かい雰囲気の農業体験＆デジタルデトックスプログラム

地域の田畑で稲刈りや野菜の収穫を体験し、集会場や公民館でお茶を飲みながら地域の人と交流する。若者はスマホを使わず、自然の中で時間を忘れるデジタルデトックスを行う。
（高校生）

地域を若者に開放する

地域に「若者がやりたいこと」のフィールドがあれば、若者は積極的に参加したい！

地域コミュニティが場の提供を行い、「町おこしになるイベントを考えてもらい協力して開催する」、「お寺や公民館のスペースを貸し出すのでワークショップや展覧会を開催をやりませんか？」といった、企画運営の力試しをしたい若者に提案し協働するプログラムが魅力的だと思う！
（大学生）

「若者の活動を地域コミュニティがサポートすることで、結果として若者と地域が一丸となっている」という方が良い

私は、「こどものまち」を再現して、子どもたちが楽しみながら社会のしくみを学べるリアルなお店屋さんごっこ遊びを開催してみたい！
（高校生）

地域活性化そのものに興味があるという人に、課題解決・企画立案してもらう

「地域コミュニティの課題解決、イベント等の企画立案など若者のアイディアで力を貸してくれる方を募集！」といったように地域コミュニティの課題解決、企画立案を地域コミュニティの活動内容に組み込む。地域活性化に関心がある人に対し、地域コミュニティに関わるきっかけを作れると思う。
（大学生）

事例　酒田市日向地区における東北公益文科大学 学生団体PRAXISの取組み

高齢化率が約6割の酒田市日向地区で、地域活性化に向けた活動を行なっている。学生それぞれが自身の強みや関心を生かし、カフェ運営や地域のお祭りなどのイベント運営などに携わり、今や地域に欠かせない存在となっています。

SNS等のデジタル活用

SNSやWEBサイトで活動の報告を行う

XやFACEBOOKなどのSNS、WEBサイト等を使用して、イベント開催後に月1回程度の頻度で、写真付きでの活動報告を行う。
（大学生）

回覧板をインスタグラム化すると良いと思う！

普段の地域コミュニティでの活動をSNSに写真や動画を多めにして投稿し、「夏祭り準備の〇〇が重くて大変だから手伝ってほしい」など若者の協力の必要性を伝えたり、参加する若者が活躍している様子や感想などを投稿する。
（高校生）

SNSを通じた商品企画や開発販売

関係人口が協力して、地域コミュニティによる商品企画や開発販売などをSNSを通じて行う。
（社会人）

その他（農業・料理・教育）

お米や果物、野菜に紅花！「育てる」農業体験

地域コミュニティが農家と協力して、農業や田舎暮らしに興味のある若者に、「育てる」ことを学ぶ農業体験・農泊プログラムを行う。作業の合間や食事の際などにゆっくり言葉を交わすことで、やよい町内会や西山形の酒を造る会でのような「世代間」の交流ができると思う。
（高校生）

山形の美味しい食べ物を活かしたお料理教室

山形の郷土料理や地域で食べられている料理、料理の裏ワザ等を教えてもらう、小学生から大人まで幅広く楽しめる料理教室を開催する。一緒に調理や食事することで、地域と参加者の距離が近くなり、話もしやすくなる。
（高校生）

学校が地域と密着した活動を行う機会を生徒に提供することで、関係人口の若者が地域に混ざりやすくなる

学校が地域コミュニティとの連携を進めて、コミュニティ活動に生徒を参加させることで、地域の方と生徒の結びつきを強めるとともに、探究活動として地域を学ぶことに繋がる。
（高校生）

幼少期に地域コミュニティ活動の経験があることが、地域への関わりやすさにつながる

幼少期から学校行事の一環として、地域コミュニティ主催の活動に参加し、地域の人々との関係が醸成されることで、高校生や大学生等になった関係人口の若者は、幼少期の経験を糧に、地域コミュニティの活動に抵抗感なく参加できるのではないか。
（大学生）

事例　地元住民が小学校のクラブ活動の講師として活躍

大分県豊後大野市三重町の４つの小学校では、学校運営協議会と連携し、地元住民が「まちなか探検」などクラブ活動の講師として活躍している。『地域の人・もの・歴史に触れることでふるさとに愛着を持ってもらい、成長してから思い出してもらいたい。地域の人に子どもたちを知ってもらうというねらいもあります』（三重第一小学校・矢倉校長）

事例　地域の大人が近隣小学校の吹奏楽クラブの指導を行う取組み

地域の大人が近隣小学校の吹奏楽クラブを指導していることで、夏祭りや町内会の行事に参加する子どもの増加につながっていると感じます。近所で会ったらお互いに挨拶する関係性です。

山形市やよい町内会
会長 門脇 徹 氏

なぜ関係人口の若者は地域コミュニティ活動への参加に踏み出せない？

意見交換会において意見を交わすなかで見えてきた若者の率直な本音をまとめました。

参加をためらう 3 つのホンネ

課題1 わからない

・参加方法は？
・どこで募集しているの？

活動に参加するための入口が分からない

・どんな活動をしてるの？
・活動の頻度は？
・私のやりたい活動をやっているの？

活動内容が分からない

・どんな人に参加してほしいの？
・参加した場合、主に何をしてほしい？

地域コミュニティの人々が若者に何を求めているのか分からない

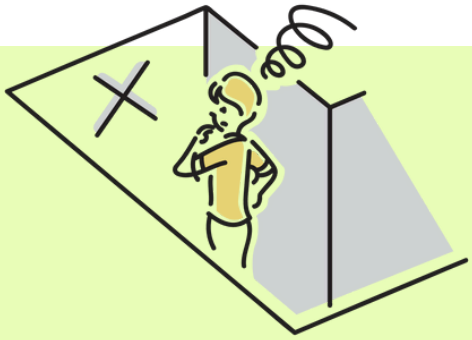
部外者の自分が参加してもいいの？

他にも参加している若者っているのかな？
自分だけだったら不安…

分からないから、参加を躊躇してしまう

課題2 活動内容に、ピンと来ない…

若者にとって馴染みがないものだったりすると距離を感じてしまう



課題3 地域コミュニティとの関係性が希薄

地域コミュニティ内で頼れる人がいない

幼少期からの地域との関わりがなくなってきている

意見交換会では、若者が地域コミュニティへの参加に踏み出せない最大の要因として「情報不足」の声が多く挙げられました。情報が足りないことによって参加に不安を感じ、一歩踏み出せない状況となっていると考えられます。

メンバー
大学生
Yさん

関係人口の若者が参加したくなる地域コミュニティ企画運営のポイント

意見交換会での意見を踏まえて、関係人口の若者が参加したくなる地域コミュニティ企画運営の具体的なポイントを「３つ」にまとめました。

参加をためらう…

これがあれば参加しやすい！

わからない

活動内容
参加方法
若者に期待すること
関係人口って参加して良いの？

ポイント１

SNSでの情報発信

自治会・町内会での活用事例あります！

活動内容にピンと来ない

ポイント２

関係人口の若者が参加したくなる活動内容と伝え方

今ある活動をほんの少し工夫するだけ！

地域コミュニティに知り合いがいない関係性が希薄

ポイント３

コーディネーター

橋渡し役がいると、地域に入りやすい

これがあれば参加しやすい！ ポイント１.SNSでの情報発信

メンバーの意見

地域コミュニティのことについて、情報がない・知らない

・地域コミュニティの活動が若者に知られていない
・若者が参加してみたいと思ってもらえるような広報をあまり見かけない
（社会人）

地域コミュニティに関わりがない人にとっては、普段どんな事をしているのかどうやったら参加できるのかわからない
（高校生）

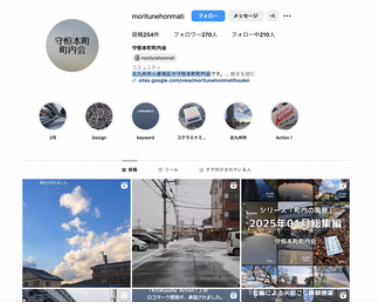
どうしたら若者に情報届くのか？　→　SNS という声が多かったです。

町内会に参加していない人にとって町内会内部をブラックボックス化させないことが大事！

活動報告は写真と文章で簡潔に表現し、一目見た時のわかりやすさを重視したビジュアル的な発信が欲しい！
（大学生）

テレビは家にないので、情報はSNSで流れるくるのを大事にします。
（大学生）

SNSを活用している地域コミュニティもあります！



守恒本町町内会（北九州市小倉南区）

練馬春日町町内会（東京都練馬区）

会津若松市湊地区におけるNPO法人みんなと湊まちづくりネットワーク地域運営組織（RMO）

『どんな人が集まるか』『人数や団体の規模』『具体的な活動内容』があると、自分がその活動の輪に入った時のことを想像しやすいです！

メンバー
大学生
Sさん

地域コミュニティの情報を SNS で発信する例

スケジュールの共有

参加者募集

イベントの開催報告

私が作成しました

画像の編集ってよく分からないな…という方は日記感覚で写真をそのまま投稿しても構わないと思います。
若者に訴えかけるには、自分が呼ばれていると思える言葉（例・〇〇に興味のある大学生注目！など)を示したり、定期的に発信を行って、その団体が継続的に活動していることを示すと良いと思います！

メンバー
大学生
Sさん

投稿例　山形市やよい町内会の活動を「インスタグラムでの発信用の投稿」にしてみました。

どういう気持ちで活動しているのか、どういった若者と活動がしたいのかを世の中に発信していくことが、志に共鳴した方の参加に繋がる第1歩です。

イベントの開催報告

日常の様子

参加者募集

私が作成しました

文字を大きくする、色の差をはっきりつけるなど、視認性を高くすると良いと思います！報告系や日常の様子などの投稿であれば、画像は編集せず写真をそのまま使っても良いと思います！

画像に文字を入れられて、画像をおしゃれに加工できる無料のツールがあるので、全くデザインをしたことがない人でも使いこなせます！ぜひやってみてください！

メンバー
大学生
Sさん

これがあれば参加しやすい！ ポイント2.参加したくなる活動内容と伝え方

メンバーの意見

関係人口の若者は「こんな活動」だと参加したくなる！

困った時や相談したいことがある時にお互い気楽に連絡しあえる関係性

「継続性」がある

１回きりの関係ではなく、継続的に関わりたい！

若者が気軽に来れる「第二の祖父母の家」のような憩いの場

金銭の負担感が少ない

参加のしやすさに繋がり、さらに継続的な関係にも繋がる！特に交通費は重要。

興味のあることに挑戦できる

若者が興味を持っている分野は様々。
（教育、マーケティング、企画、デザイン…）
専門性や興味を持つ分野があっても、必ずしも地域活性化や関係人口としての活動に関心を持っているわけではない。
しかし、その分野を活かせる機会があれば、地域との接点が生まれる！

達成感が得られる

プロジェクト型の実践活動をしたいという若者は多い。
達成感が得られることで、地域コミュニティに関わることの意義・役割をより見出すことできるので、更なる関わりのモチベーションアップにつながる。

若者が自己重要感を感じる

「若者の力が必要」と地域コミュニティから求められることで、若者は「自分が役に立つことができる！」と地域へのマインドがより動きやすくなる！

メンバーの意見をもとに、「若者が惹かれる活動」を整理しました。
若者は「人」と関わるからこそ得られる経験や体験を重視していると感じました。
また、「挑戦できる」と「安心できる」など、一見して反対に思えるものを求めていることも伺えます。

メンバー
大学生
Eさん

参加したくなる活動内容のアイディア

アイディア1

地域コミュニティの既存の活動と若者の興味関心を組み合わせる

地域コミュニティ

既存の活動

×

関係人口の若者

・興味のあることへの挑戦
・達成感
・自己重要感の獲得
など

例えば

情報発信を手伝う

デザイン・SNSが好き・やったことないけど挑戦したい大学生や高校生などを募集する

募集すること自体を、若者がコミュニティに関わっていく一つの形として企画にしても良いと思う。学生にとっては実績作りやポートフォリオ用の作品づくりになる。SNSがうまく使えない地域コミュニティでもより視覚的に広く訴えやすい。
（大学生）

例えば

お祭りを当日だけ手伝う

地域のお祭りのボランティアとして手伝いたい！きっと地域に関わるきっかけになる

「テント張り」などであれば当日のみでできるし、踊り等があるお祭りの場合、伝統芸能体験としてアピールして、現地で練習会を行うのはどうだろう？
交通費や宿代の補助などがあれば、若者は嬉しい！
（社会人）

事例

青森県今別町で450年近く続く「荒馬まつり」

20年以上もお祭りに関係人口が参加。地区の子供と関係人口の子供が一緒に踊る。

アイディア２

地域を若者に解放する

地域に「若者がやりたいこと」のフィールドがあれば、若者は積極的に参加したい！

「若者の活動を地域コミュニティがサポートすることで、結果として若者と地域が一丸となっている」という方が良い

地域活性化そのものに興味があるという人に、課題解決・企画立案してもらう

詳しくはP7をご覧ください。

参加したくなる伝え方
～関係人口の若者を募集する方法～

地元出身者、出身ではないけどゆかりがあるなど、「地域」に興味がある若者は、情報を待っています。

メンバーの意見

地域コミュニティの活動を宣伝して欲しい。活動情報を周知してもらえれば、自分で情報を取りに行ける。（社会人）

案１　各町内会が、SNSなど、若者が見ているツールで発信

関係人口の若者募集をSNSで発信する例

動画は、こちらからご覧いただけます

案2　まとまって、手伝いたい人を募集する

地域コミュニティごとに募集するのではなくて、複数の地域コミュニティがまとまって、「関係人口の若者がSNS発信を手伝うこと』をやりたい人は集まれ」のように周知されると、若者は応募しやすいかもしれません！

（大学生）

関係人口が手伝った事例

新庄市内のまちづくり団体の広報インターン募集

大学生や社会人４人が３か月から２年程度活動

新規OPENする山形市内のカフェの認知度アップのためのSNS運用インターン募集

大学生３人が約２か月間活動

関係人口等向けに地域情報を編集・集約しているポータルサイトへの掲載

例）ヤマガタ未来ラボ等

ゆくゆく山形 by ヤマガタ楽楽ラボ

ぜひ、地域コミュニティ活動の情報を若者に届けていきましょう

これがあれば参加しやすい！ ポイント３.コーディネーター

Q 今回のプログラムでは、コーディネーター（橋渡し役）が地域コミュニティと調整し、活動体験を行いましたが、コーディネーターの有無が地域コミュニティとの関わりやすさに繋がると考えますか？

YES 100%

地域コミュニティについてよく知るコーディネーターがパイプ役として関わっていただいたことで、プログラムが円滑に進められたと思います。

若者と高齢住民の世代間ギャップや、都会と地方の地域差を埋めるためにも両者の橋渡し役は必要。

橋渡しの存在意義は大いにあると思うし、実際関わりやすさは段違いであったと思う。

橋渡しがなければ地域コミュニティとも関わることは無かったし、上手く話せることもできなかったと思うのでとても関わりやすくなったと思う。

コーディネーター（橋渡し役）が存在することにより、地域コミュニティでの関わりやすさが全く違うと思います。

世代の価値観違いもあり、お互いの意図していることが伝わらないことがありそうなので、思っていることや感じていることを伝わりやすくするためには、橋渡し役のコーディネーターの存在は必要不可欠だと思う。

今回の活動では、メンバーが地域コミュニティの方に質問しやすいように、コーディネーター（橋渡し役）が取材シートを用意。

コーディネーターとは

地域全体を良くするための視点を持ちながら関係人口と地域のマッチングやサポートなどの活動を行う伴走支援者のこと。地域に密着しながら、関係人口や住民のやりたいこと・困ったことを見つけ出してプロジェクト化します。

今回の事業でのコーディネーターの動き

（準備）
- 地域側と丁寧に対話し課題ややりたいことをヒアリング
- プログラム全体の企画
- 関係人口側への広報・告知
- メンバーと地域コミュニティの事前顔合わせ会の企画運営

（実施）
- 活動の日程調整
- 当日のファシリテーション

（フォロー）
- 地域コミュニティ、メンバーからの感想・意見の聴取、フィードバック

地域コミュニティにコーディネーターが関わるという選択肢

コーディネーターは、「**仲人**（結婚のお見合いを仕切り、縁を取り持ったり、両家の連絡役として必要なやり取りをする人）」のような存在。
内外を問わず様々な人材や組織と関係を深めながら連携・マッチングさせ、プロジェクトに対して継続的に関わっていく存在です。
地域で伴走支援を行う様々な立場の人が、『コーディネーター』になり得ます。

コーディネーター
田中麻衣子

山形県内で活動してるコーディネーターに「地域コミュニティの活動に関係人口の若者が参画するポイント」についてインタビューしました。

山形市生まれ。中山町地域おこし協力隊を経て地域振興会社を設立。地域商品開発・販売、インターネットラジオ、中間支援、地域おこし協力隊サポートなどの事業を行う。

FURUSATOの未来　伊藤 一之さん

私が取材しました

メンバー
高校生
Nさん

Q 伊藤さんは、地域で活動していて、関係人口についてどのように考えていますか？

A 地域の持続可能性・維持発展のために関係人口は重要なので念頭において活動しています。ひとくちに関係人口といっても、温度差は人それぞれだと感じます。小さな頃の思い出は大きくなっても残るので、学校教育で郷土の歴史などを取り入れたりして地域に愛着が生まれるきっかけを作ることは、大切な取組みだと思います。

Q 伊藤さんは、「地域と関係人口のコーディネート」をどのように行っていますか？

A 関係人口が自然と生み出されるメカニズムを作ることが仕事なので、直接的に地域に関係人口を入れることを行っていませんが、「関わる地域に責任を持ちたい」、「地域を持続可能にして未来に繋げたい」という想いや目的で行動しています。
そして、大切にしているのは、「徹底的に地域の人の気持ちになる」ことと「地域がどのように形成されてきたかを知る」こと。地域の人の苦労や歴史を知って、地域との関係性を作ることが重要であると考えています。

Q 関係人口を受け入れる「地域コミュニティ側」に必要なものはどんなことだと思いますか？

A 関係人口は、地域の人の「想い」（例えば、こんな町にしたい！とか、町のお祭りを残したいとか、本気度、情熱、誇り、そのひとが持っているコアの部分）に反応するので、それを「見える化」することが大切です。
地域が続いていくためには若者が地域に入ることが重要ですが、地域の外から関わりたい若者を地域で受け入れるには、地域側だけで上手くやるのは大変なので、コーディネーターがいないと厳しいと感じます。

地域コミュニティと『コーディネーター（橋渡し役）』とが連携することで、地域コミュニティで活動する関係人口の若者の増加につながります。

活動詳細　4.報告書の作成・報告会の開催

関係人口の若者と地域コミュニティの「共創」に向けて、活動の成果を伝える報告書の作成や報告会の企画に取り組みました。

メンバーの想い・考え

地域コミュニティにもいずれ世代交代がやってくる。関係人口と地域コミュニティが上手く付き合っていくためには、互いを受け入れる準備と理解が進んでいる必要がある。

メンバー間で、地域への想いや求める関わりの深さ、重視するポイントが全く異なるが、対話を重ねるうちに共通の価値観が浮かび上がってきた。

地域コミュニティで活動することが想像以上に楽しく、このような活動がどんどん広がっていけば、地方の少子高齢化解決につながっていくと思う！

これからの時代は、若者も地域づくりの1人の担い手として貢献をしていくことが求められると思う！

地域コミュニティと関係人口の双方が「こころを通わせられる余裕」を持てば、地域活動という堅苦しいイメージと違った新鮮な気持ちで協働できるようになる。

2/25 報告会

メンバー、県市町職員、地域コミュニティの方や地域づくりに関心のある若者、約50名が参加しました。

活動報告

メンバーが活動内容や成果について発表しました。

意見交換会

グループに分かれて、報告内容などについて意見を出し合いました。

意見交換会で出された意見（一部）

- 同じ市内の町内会でまとまって関係人口の若者を募集する案は良いなと思った。
- SNSでの情報発信はハードルが高い。
- メンバーに地域に関心がある理由を聞いたら、幼少期から地域とのつながりが濃い印象を持った。
  地域コミュニティ・若者といった属性の垣根を越えて、社会全体でつながっていくことが大事だと思った。

まとめ
「関係人口の若者が地域で活動するには」

若者目線
まとめ

1 関係人口の若者は、世代を超えた交流に大きな魅力を感じている。地域コミュニティで関係人口の若者が活動するためには、まず活動内容や活動への参加方法などを若者に知ってもらうことが重要。

2 関係人口の若者が関心を持つ分野に「挑戦・実践」できるコミュニティ活動があることが、若者の参加意欲を高めるポイント。

3 関係人口の若者にとって大切なことは、自分のやりたいことを明確にしたうえで地域コミュニティの活動に参加し、コミュニケーションを通じて地域コミュニティとより良い関係性をつくること。

4 関係人口の若者と地域コミュニティの双方が、互いを受け入れ、心を通わせる関係となることで、コミュニティ活動を円滑に進めたり、継続的に関わることができるようになる。

5 地域をよく知る「コーディネーター」が、地域コミュニティと関係人口の若者を結び、両者の不安や懸念等のギャップの解消、コミュニケーションの促進を図ることで、コミュニティ活動に参加する若者の増加につながる。

全国的に人口減少や高齢化、地域活動の希薄化等を背景として、地域コミュニティの維持・活性化が課題となっています。そうした中、村山総合支庁では、関係人口に着目し、地域コミュニティとの関わりや協働の可能性を探るため、令和５年度から２か年にわたり「むらやま若者みらい創造モデル事業」を実施してきました。

令和５年度事業の調査結果や、今年度、実際に若者が地域コミュニティ活動体験等のプログラムに参加して得られた「関係人口の若者が地域で活動するための提言」等について、関係人口との関わりや地域づくりに関心のある多くの方々にご活用いただけるよう様々な機会を通して発信してまいります。

本事業の成果が、地域コミュニティと関係人口の若者の協働・共創による地域コミュニティ活動の活性化・創出の契機となり、地域を未来につないでいくための一助となることを期待するとともに、本事業にご参加・ご協力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。

山形県村山総合支庁

制　作

・株式会社 キャリアクリエイト
・むらやま若者みらい創造ミーティングメンバー

本事業にご協力いただいたみなさま

・山形市やよい町内会　門脇徹さん及び町内会のみなさま
・西山形の酒を造る会　柏倉明裕さん及び関係者のみなさま
・FURUSATOの未来　伊藤一之さん

令和6年度　むらやま若者みらい創造モデル事業

「地域コミュニティ　×　関係人口　レポート」

山形県村山総合支庁総務企画部総務課連携支援室

〒990-2492　山形市鉄砲町二丁目19-68
TEL: 023-621-8354　　FAX: 023-621-8363